

# 青少年委員だより

## 静かに笑顔で記念撮影

## 第157号



### コロナ禍での総会

令和3年4月16日(金)、江戸川区総合文化センターにて青少年委員会定期総会・4月定例会を開催しました。昨年度の定例会は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて中止またはオンラインでの実施としてきたため、全委員が集まるのは令和元年11月以来となりました。

今回の定例会では彦田義敬文化共育部長に講演をしていただきました。東京オリンピック開会式まで100日を切ったということで、1964年東京オリンピックの頃の日本や江戸川区、スポーツ界の様子をお話していただきました。江戸川区ではちょうどその頃、田畑が住宅地区に移り変わっていったり、区歌や区のマークが制定されたりした時期だったそうです。

オリンピック・パラリンピックの開催は個人の生活レベルから開催都市・国レベルまで、大きな変革をもたらすということを改めて感じ、今回の開催はどのような変化が生まれるのだろうと想像を膨らませました。今となっては当たり前ですが、以前とは打って変わって全員がマスク着用・ソーシャルディスタンスを保つなど、感染予防をしながらの定例会でした。それぞれに健康を確かめ合い、最後はその瞬間だけマスクを外し、静かに笑顔で記念撮影をしました。

(文責 東部地区部会 塚原安希津)

# 「アフターコロナとニューノーマルとPTA」

江戸川区立中学校PTA連合協議会（以下、江中P連）

会長 井上

功（鹿骨中学校）



日頃より青少年委員の皆様にはPTA連合協議会、各校PTAの活動に対しまして、御理解と御協

力をうけ賜り、誠にありがとうございます。今年度、江中P連の会長を拝命致しました、井上功と申します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

私は去年の4月より青少年委員に委嘱されています。2つの役職の根底にあるのは、「子どもたちのために！」という想いです。

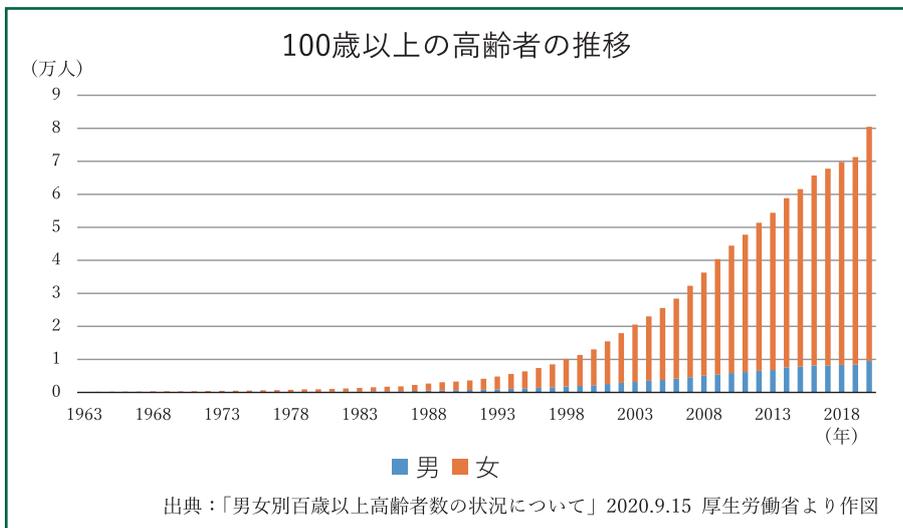
現在、コロナ禍で様々な学校行事、地域のイベント、PTAや青少年委員活動などが制約されておりますが、いずれ収束し、アフターコロナの時代が来ます。最近、ニューノーマルという言葉をよく聞きますが、例えば、テレワークやオンライン授業、オンライン会議の導入など、学校、仕事、社会などは大きく変化して

おります。これらの大きな変化に対応しながら、「どうしたら、子どもたちのためにできるか？」を日々追求していきたいと考えています。

人生100年時代といわれて久しいですが添付のグラフをご覧くださいますと、100歳以上の日本人は、初めて8万人を突破しました。また、私の勤務先の社長曰く、現在15歳の日本人は55%の確率で100歳まで生きるとのことです。そのような長い人生の中で、特に青少年の楽しい思い出作りに少しでも貢献できるように、PTAとして、また青少年委員として頑張る所存です。

今年、オリンピック・パラリンピックイヤーです。開催されれば、夏季開催としては57年ぶりです。少しでも子どもたちと一緒に感動や興奮を共有したいところです。そのためには、青少年委員の皆様、区行政の皆様には、より一層の御支援、御協力を賜りますよう、引き続き

よろしくお願い申し上げます。



紙芝居文化研究グループ

「コロナ禍でもできること」から始めよう！

紙芝居文化研究グループは、6期11年目。今期は、新型コロナウイルスの感染拡大により、青少年委員の活動がストップし、紙芝居口演の実績がある様々なイベントも中止になりました。新メンバーとともに、コロナ禍でも子どもたちが紙芝居に触れ合うことができる機会を模索することになりました。

まず事態が改善するまでにながでできるかを考え、各自で演じ方を研究し、得意な紙芝居の題材を見つけることにしました。

それから、「3密を避ける」「ソーシャルディスタンスを保つ」の制約を受けるなか、どう子どもたちとコミュニケーションを取り、紙芝居の楽しさを伝えることができるかを考えました。チャレンジ案として、口演した紙芝居をDVDにしてはどうか、青少年委員の活動としてSNSにアップすることはできないだろうかと考えましたが、それには著作権の問題がありました。オリジナル紙芝居作品ならその心配がないことがわかり、新たにオリジナル作品を企画することになりました。

そして、今期のオリジナル作品の題材は、冊子「江戸川区の昔ばなし」の中で青少年委員になじみのある「小岩善養寺」にまつわる昔話を2話、紙芝居にすることにしました。善養寺を訪れ、ご住職にその昔ばなしの内容をお聞きし、紙芝居

にさせていただきます。ご了承いただきました。コロナ禍の収束を願い、子どもたちと紙芝居を通して触れ合うことができるように、今までに紙芝居の完成を目指して活動してまいります。

(文責 中央地区部会 廣木米子)



川島会長来訪 前期作品を実演



善養寺訪問



小岩 善養寺



## 子どもの文化体験研究グループ

## 「わが町たんけん隊」を子どもたちへ

子どもの文化体験研究グループでは、

子どもたちに地域の誇れる伝統や文化だけでなく、自然や産業、さらには人と触れ合う機会をつくるため、エリアごとに「わが町たんけん隊」を実施しています。

実施にあたっては、対象地域の青少年育成地区委員長をはじめ校長会・PTA会長会・子ども会とも連携を取りながら、地域の人脈を深め地域文化の研究に努めています。多くの方々との出会いがあり、交流を楽しめるのもこの研究グループの醍醐味です。

これまでは体験型で行ってきたため、今後コロナ禍ではどのような方法で伝えていくかが課題になっています。

今期は葛西南地域が対象地域ですが、令和2年度のはじめに葛西第二地区委員会の清宮高義委員長を月例会にお招きし、ご自身の中学生時代の経験を通して葛西

の変遷をお話いただきました。また、

清宮委員長より戦前から葛西で生まれ育ち地域貢献に努めてこられた浅井安政様をご紹介いただきました。浅井様より、

戦前から半農半漁の時代だった葛西村の様子や、昭和37年に葛西沖の埋め立てが決まり、葛西を水害から守ってきた防波堤が徐々に崩されていき切ない気持ちになった事など、古い地図と現在の地図をもとに当時の様子をわかりやすくお話いただきました。

江戸川区指定無形民俗文化財にも登録されている「雷いかづちの大概若」は無病息災を願った奇祭です。今年には新型コロナウイルスの感染拡大防止



2019年 新川たんけん隊「畳づくり」体験



2019年 新川たんけん隊「和船」体験

のために中止になってしまい大変残念でしたが、今後保存会（雷友会）の方々にお話をうかがう予定となっています。コロナ禍において、葛西地域に住む子どもたちにわが町の良さを伝えていくため、オンライン参加なども視野に入れ、楽しい「たんけん隊」企画をご案内できるように現在研究グループ一同検討を重ねております。

（文責 葛西南地区部会 山本祐子）

おもしろ工作研究グループ

コロナ禍で子どもたちにもたたちに近づかない取り組み方とは

新しい生活スタイルが求められる今、新型コロナウイルスの感染拡大により、各地域で行ってきた例年のイベントがでさなくなったり、人との接触が制限されたり、今まで当たり前だったことができない日々が続いています。子どもたちと直接ふれあう場が多い青少年委員活動。おもしろ工作研究グループでは各地域で行われる子ども向けの工作教室などで活用できる「工作マニュアル」を作成してきました。

コロナ禍が収束し活動が再開してもいきなり以前みたいにはいきません。3密を避け、ソーシャルディスタンスを保った活動をしなければなりません。

そこで、今期はアフターコロナでの子どもたち向けの工作教室を想定した取り組み方を模索しています。

現在検討しているのは、一人分の工作材料をまとめ



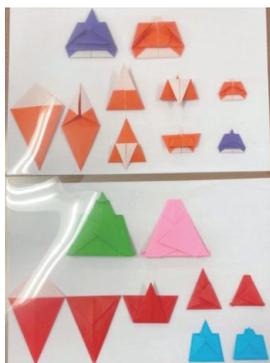
マニュアル資料



1セット袋入り



工程見本 (上下ともに)



た袋入りの「1セット」と、「工作マニュアル」を元に分かりやすい作り方の手順を示した「工程見本」を事前に用意することです。工作教室では、子どもたちやスタッフが密にならないように注意しながら、配布した「1セット」から「工程見本」を参考に子どもたち自身で作品を作ってもらうようにすればよいと考えています。

おもしろ工作研究グループは今期もいろいろなアイデアを出し合い、地域でのイベントに役に立てるよう「工作マニュアル」の作成や取り組み方を検討していきます。また、早く安心できる日々が戻るよう願っています。

(文責 中央地区部会 早川幹夫)



活動の様子



子ども  
アカデミー

## 道具となかよし

コロナ禍で私たち青少年委員も、子どもたちと直接関わる活動が行えない状況が続いていますが、4月と5月の第三日曜日に、子ども未来館で「道具となかよし」の講座を開催することができました。

コロナ禍の中で小学生に指導をするため、現役の教諭に相談をして、講座を行うための感染症対策（密集・密接・密閉にならないため）を作成し、実践しました。

### 講座を行うための感染症対策 (密集・密接・密閉にならないため)

- ①大工道具の使い方を見せるためのデモンストラーションは、全体では行わず、作業机ごと(4カ所)で行います。
- ②講座に参加している小学生は自分の席から移動しません。作業するときは自分の席で立って行ってください。
- ③30分おきに休憩時間を作り、室内を換気します。
- ④指導者及び講座に参加している小学生ともに、マスクを着用して講座を進めます。返事をするときは、声は小さく、大きくうなずいてください。

以上、感染症対策に気をつけながら、楽しく講座を体験していきましょう。

これまででは、ホワイトボードの前に子どもたちを集めて道具の説明をしていたのですが、今回は密接を回避するため、子どもが席を移動しないように講師が机を回って説明しました。また、共同作業も移動せず、それぞれの机の上で

行いました。

説明する講師の立つ位置を、教室の前方から中心に変えることが感染症対策になったりと、私たちが意識をすることで改善されていくことがわかりました。

また、マスクを着用して講座を進めていると、子どもたちの反応が分かりづらく、伝わっているか不安に駆られました。

「分かりましたか？」の質問に、子どもたちが大きくうなずいてくれた時には、理解してもらえたことを強く感じることができました。

まだまだ日常には程遠い状況ですが、「道具となかよし」で実践できた感染症対策の体験をこれからの青少年委員活動に生かしていきたいと思っています。

(文責 小岩地区部会 秋葉誠二)



## あとがき

昨年末に前号を発行した後に緊急事態宣言が発令され、まん延防止等重点措置、再度の緊急事態宣言と続き、広報部は部員が集まらずに活動することができない状態になりました。

数少ない会議とSNSを活用した意見交換でなんとか今号は作成しました。

未熟な点がありますが、これも新しい生活様式に合った青少年委員活動の実績だと考えています。

次号も青少年育成活動を行っている方々へ、少しでも役に立つ内容を紹介していきたいと思っています。

### 青少年委員だより

発行 江戸川区青少年委員会  
編集 広報部  
連絡 江戸川区文化共育部

健全育成課育成活動支援係  
☎ 03(5662)0357